

第9回 四日市市内山事案 技術検討専門委員会 議事録

日 時：平成30年11月30日（金）14:30～15:00

場 所：四日市市小山田地区市民センター 2階大会議室

委 員：樋口委員長（福岡大学教授）、田中委員（四日市大学教授）

事務局：（三重県廃棄物対策局）有富担当課長、中島班長、寺田班長代理、加納主査

1. 開会

1.1 開会挨拶

2. 議事

2.1 対策効果の確認について

2.2 今後のスケジュールについて

事務局 事務局より、資料について説明を行いました。

樋口委員長 事務局の説明に関して、ご意見、ご質問はありますでしょうか。

それでは、委員会前に事案地の法面、雨水排水溝および雨水集水池の状況を見てきましたのでコメントします。

今年は降雨が多かったことから、法面の状態を一番心配していました。法面から中に水が入ってしまうと法面崩壊につながる恐れがありますが、本日見た状況では法面はよく締っており草もしっかり根付いていることから、防災上の問題はないと考えています。

雨水集水池の堆積物の量も他の事例と比べても少ない状況でした。

防災上は完璧に対策工事がなされており、それが維持されています。

水質のモニタリング結果についてはご専門の田中委員からコメントをいただきたいと思います。

田中委員 本日見た状況として、出てきている水の見目は悪くありませんでした。

また、モニタリング結果についておおむね問題となるような、心配しなければならないような結果は認められません。

鹿化川の窒素が高いことについては、この地域の独特の産業、特にお茶を栽培されている地域においては他の地域でも同じような結果がでており、原因についてはある程度推定されます。

水質のモニタリング結果を見ると、今後このまま推移してほしいと考えています。

生物関係について、法面にセイタカアワダチソウなどの植生が広がってきていますが、いずれは事案地周辺にある植物の遷移のなかにとりこまれていくと考えられます。植生から見た場合も特に問題のある感じではありません。

ようやくここまでできたかな、という印象を受けました。

樋口委員長

硫化水素ガス、メタンガスについてコメントします。

硫化水素ガスについては、作業環境基準が 10ppm のところ敷地境界で 0.02ppm 未満としており、かなり厳しい基準をクリアしているのでまったく問題ないと考えています。

地中温度についてはサイト内と敷地外の地中温度の差が 20℃未満というのが廃棄物資源循環学会の指標ですが、地中温度の差は 16℃ということでこれをクリアしています。

中の温度が高くなってくるとガスの発生量も増加してきますが、これから温度は下がっていくと考えられるため、ガスの発生量の増加というのはあまり考えられません。

メタンガスについては濃度が 60%といわれると高いような印象を受けますが、ガスの発生量が毎分 0.7L ときわめて少なく、ブルーム式による拡散計算の結果では井戸の口から出た途端に拡散して、50cm 離れるとほとんどゼロになります。この辺はかなりガスの発生量が少なく問題ありません。

水質のモニタリング結果について田中委員からコメントがありましたが、覆土工事期間中は水質に変動が見られましたが、工事完了後 1 年経過した現状では若干の変動はあるものの低減傾向がみられます。

ガス、水質とも順調に安定化に向かって推移しています。

また、特に生活環境保全上の支障もみとめられず、法面崩壊などの防災上の面についても、うまく施工されており維持管理も適切にされていることから 変状もほとんど認められない状況です。

雨水集水池には藻類が生えており、汚水が出ているような状況はありません。

これらのことから、防災上も環境保全上も順調に推移していると考えられます。

効果確認の結果は実施計画における目標達成にかかる判断基準を満たした状態で推移しており問題ない状態です。

長期的に見ていく必要がありますので、実施計画に基づき平成 31 年度まで周辺環境調査を実施して生活環境保全上の支障が生じていないことを確認することとします。

3. 閉会